

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭57—99109

⑪ Int. Cl.

G 01 B 7/30

F 02 M 19/12

識別記号

庁内整理番号

7355—2F

6941—3G

⑬ 公開 昭和57年(1982)6月18日

審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑭ スロットル開度検出器

伊勢崎市柏川町1671番地 1 日本

電子機器株式会社内

⑮ 実 願 昭55—176364

⑯ 出 願 人 日本電子機器株式会社

⑰ 出 願 昭55(1980)12月9日

伊勢崎市柏川町1671番地 1

⑱ 考 案 者 田村健

⑲ 代 理 人 弁理士 藤村元彦

⑳ 実用新案登録請求の範囲

(1) ケース内でスロットルバルブシャフトと連動して一定の軌跡で回転する第1のブラシ及び第2のブラシを有する保持体と、前記第1のブラシ及び第2のブラシの回転軌跡上で、前記両ブラシにそれぞれ摺接するように配設された前記スロットルバルブシャフトの回転角に応じて連続的な電気信号を発生させるための抵抗体及び前記スロットルバルブシャフトの定められた回転角度でON-OFFさせるための導体を有するポテンシオメータと、前記両ブラシの回転中心に同芯になるように前記ケースに固定したスリーブと、前記保持体の円周方向の動きを拘束し半径方向の動きを自由にして連結されるとともに、前記スリーブとの間に半径方向の隙間を生ずるように緩嵌合し前記スロットルバルブシャフトの回転運動を前記両ブラシに伝達するようにした継手とを有することを特徴とするスロットル開度検出器。

(2) 前記ポテンシオメータが導電性プラスチックであることを特徴とする実用新案登録請求の範囲第1項記載のスロットル開度検出器。

(3) 前記第1のブラシ及び第2のブラシの保持体の軸受部を焼結合金体で形成したことを特徴とする実用新案登録請求の範囲第1項記載のスロットル開度検出器。

(4) 前記第1のブラシ及び第2のブラシと継手との連結部を、半径方向に平行に配置して前記両ブラシ側に固定した板状の一对の柱の間に、球状に形成した継手の腕を挟むように形成したことを特徴とする実用新案登録請求の範囲第1項記載のスロットル開度検出器。

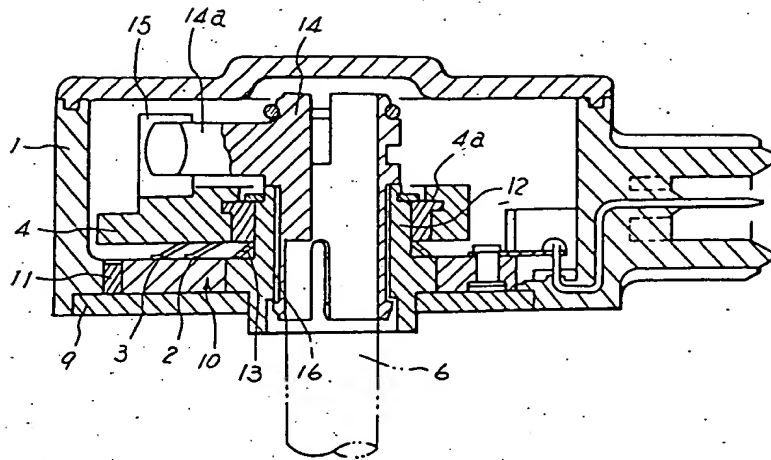
図面の簡単な説明

第1図、第2図は、従来装置を示す平面図及び縦断面図、第3図～第5図は、本考案の実施例であつて、第3図はその平面図、第4図はその縦断面図、第5図はポテンシオメータの表面を主に表わす平面図である。

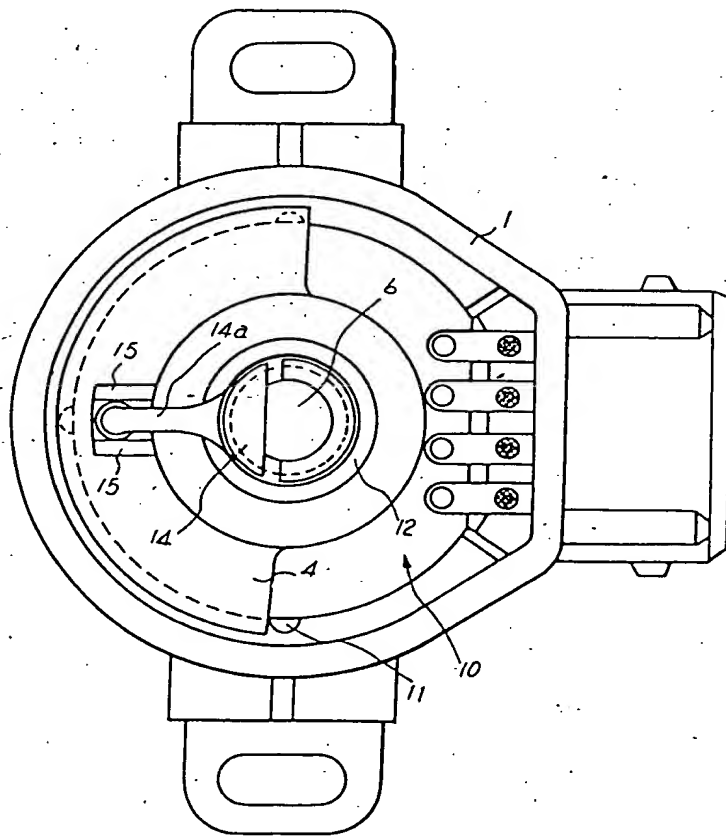
主要部分の符号の説明、1…ケース、2…第1のブラシ、3…第2のブラシ、4…保持体、4a…軸受部、5…抵抗体、6…スロットルバルブシャフト、7…導体、10…ポテンシオメータ、12…スリーブ、14…継手、14a…腕、15…柱、16…隙間。

BEST AVAILABLE COPY

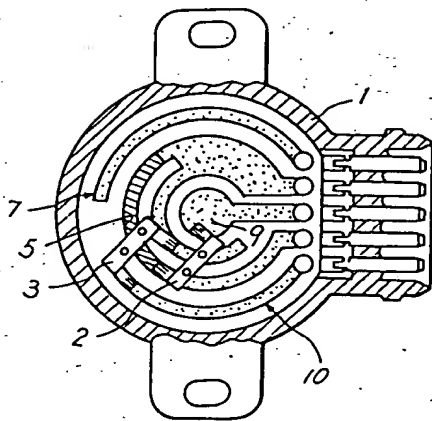
第 4 図



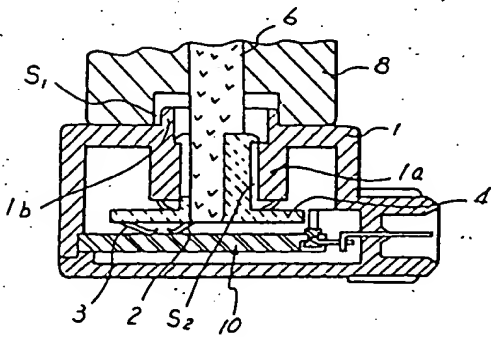
第 3 図



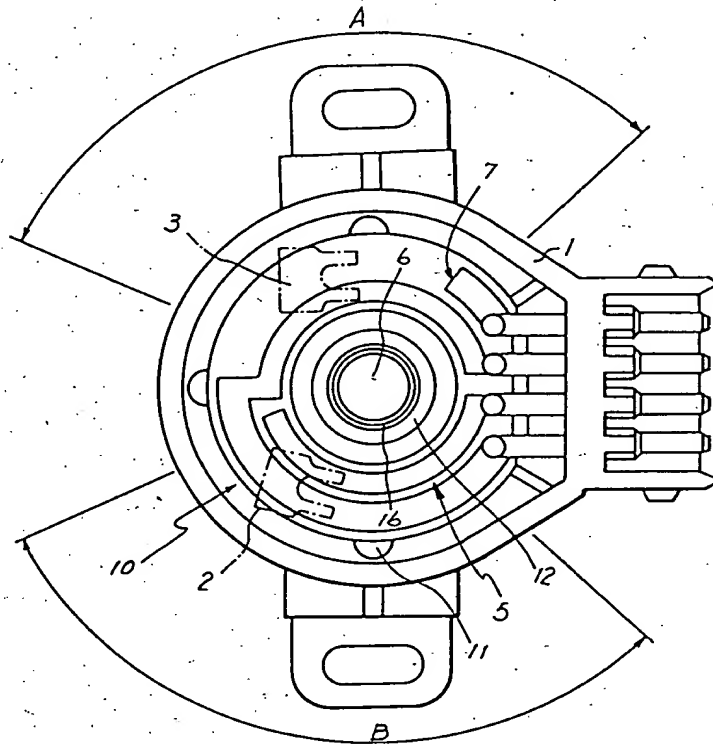
第 1 図



第 2 図



第5図



BEST AVAILABLE COPY